

## 「市長、出勤！まちトーク in 春日北」議事録

令和7年3月26日（水）

春日北公民館

※意見交換の内容は要約しています。  
(太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。)

### 【意見項目】

- 1 大規模災害時の給水対策について
- 2 市のアンケート調査について
- 3 まちづくり協議会の部員減少について
- 4 少子化対策について
- 5 地域公共交通(デマンドタクシー)について
- 6 50戸連たんによる開発行為について
- 7 子ども縁日について

### 【意見交換内容】

#### 1 大規模災害時の給水対策について

大規模災害時の給水対策について伺います。

今年2月22日の佐賀新聞に、鳥栖市は各校区の避難所に「防災井戸」を掘り、災害時に井戸水を供給する計画があるということが載っていました。

佐賀市北部には「佐賀平野北縁断層帯」があると言われており、万が一地震があると、最大震度7の大地震が発生し、水道が止まってしまう恐れがあります。

佐賀市でも避難所ごとに「防災井戸」を設置してはいかがでしょうか。

(市長)

佐賀市は、ご紹介いただいたように「北縁断層帯」がありますので、万が一に備えた災害対策は大変大事だと思います。

防災井戸の設置についてお話しいただきましたが、市内の地盤が軟弱であるため、地下水をくみ上げた場合、地盤沈下の影響があります。県の規制条例もあり、新たな井戸を掘ることは、ハードルが高い状況です。

災害時に断水した場合の市民生活への影響は非常に大きいものがあり、飲料水の確保は大事になります。

佐賀市は給水車を2台、給水タンクを9基所持しているほか、1万袋の給水袋や造水機を配備していますので、災害時は、これらの設備を活用しながら給水活動を行うことにしています。これまで、全国各地で様々な災害が起き、その対応をしてきていますので、これらの情報も参考にしながら効果的な対応について検討してまいります。

## 2 市のアンケート調査について

私の家族宛てに、佐賀市や行政機関からアンケート調査への協力依頼が届きます。このような調査は、自分の意見や現状を伝えることができる良い機会であり、できる限り回答するよう心掛けています。

ぜひ、まちづくりに役立ててもらいたいと思っておりますが、調査を実施する際に、回答者を対象にした粗品のプレゼントや地場産抽選キャンペーンなど、積極的に回答したくなるような取組を行うことで、特産物の広報などにつなげてはいかがでしょうか。

アンケートに回答する人が、何か「役に立った」と思ってもらえる方策を佐賀市でやっていただければ、アンケートに回答しようと思う人が増えると思います。

(市長)

アンケートは、様々な形で「参加型」にしていき、いろんな方の生の声を聞くことが大変大事だと思います。

秘書課で行っている「市政モニターアンケート」では、QUOカードを抽選でプレゼントしていますが、各部署がアンケートなどを行っていますので、お聞きしたご意見も参考にしながら、取り組んでいきたいと思っております。

今後も、市民の皆さんが回答したくなる工夫を意識していきたいと思っております。

## 3 まちづくり協議会の部員減少について

まちづくり協議会の部会員が減少しています。協議会でも努力していますが、市として、部会員が増える手立てについて協力していただけないでしょうか。

(市長)

春日北のまちづくり協議会は、PTAのネットワークなどで、幅広い世代や参加されにくい若い世代が参加できるように工夫されていると聞いています。

他のまちづくり協議会でうまく工夫されている事例を参考にしながら、市の職員を校区ごとに支援員として配置するなど、いろんな形で市の職員もサポートしてまいります。

## 4 少子化対策について

自治会の子どもクラブの会長から、地域の子どもの数が少ないことや、子どもクラブに参加する子どもが少ないことなどから、活動を継続することが難しく、解散するという話がありました。

子どもが増えることはなかなか難しいかもしれませんが、佐賀市として、子どもが少ない現状の対策をどのように考えているのでしょうか。

(市長)

この10年ほどで、春日北校区は人口が1,000人ほど増え、春日北小学校の児童も増えて

いると聞いていますが、校区の中でも、開発で新しく入居されたところや、そうでないところがあると思います。

また佐賀市全体で見たら、人口が減っているところが多くある中、持続可能なコミュニティを維持していくことが大変大事だと考えています。

子育て支援策にも取り組んでまいりますが、子育て世代の皆さんは、「恋愛」、「結婚」、「出産」などの様々な人生の選択を迫られる状況があると思います。そこに対するきめ細かなアンケートをとることで、皆さんがどういうことに悩んでいるのか把握し、どういう方法で解決できるのかということについて検討していきたいと考えています。

また、新たに、奨学金の返済についての支援を始めます。やはり何百万円もの負債を抱えていると、結婚や出産という選択がしにくかったり、仕事か子育てかの二者択一で考えたりということがあると思います。

仕事と子育てを両立させていくために、どういうことをやっていくかということも、これからの社会課題だと思います。

これは、部局をまたがる内容になりますので、縦割りを打破して、これらの取組を進めてまいります。

## 5 地域公共交通(デマンドタクシー)について

佐賀市北部を中心に営業していた地域密着型の地元のタクシー業者が廃業し、地域の地理に詳しくない市内中心部のタクシー業者が事業を継承したため、以前のように気軽に乗れないような状態です。

春日北校区はまちづくり協議会の公共交通部会がデマンドタクシーを運行しており、地域の高齢者からは、非常にありがたいと感謝の言葉をいただいています。

3月4日の佐賀新聞に、玄海町で、AIを活用した乗り合いバスの「のるーと玄海」が運行されると報道されていました。効率的な運行ルートはAIが考えてくれます。

費用対効果や効率を考えると、非常に良いものだと思います。市でも検討できないでしょうか。

(市長)

デマンドタクシーの「きたきた号」は、公共交通空白地域の移動手段確保に向けた、初めてのモデル事業ということで、積極的に取り組んでいただいていることに、感謝申し上げます。

地域の移動手段確保についての「費用対効果」の課題は全国でも深刻化してきています。

AIオンデマンドのメリットとして、運行ルートをAIが考えてくれることや、これまでは電話で事前予約が必要だったものが、出発直前のスマホ予約や公民館のような場所でのタブレット予約ができるようになり、マッチングがうまく成立するなどがあると思います。

一方、AIツールの導入について、最初は国からの支援や補助がありますが、メンテナンスや維持管理のコストが継続してかかってきますので、導入後に、国の補助が切れたら、継続することが困難になるということもあります。

「費用対効果」は、どの手段がより適しているかという判断になってきますので、今まで人力で

は難しかった、移動の様々なパターンデータや需要データをシミュレーションツールなども使ってクロス分析して検討していきたいと思います。

春日北校区は、非常に熱心に取り組んでいただいております、前向きで建設的なご提案をいただき、非常にありがたいと思います。ぜひ今後も一緒に知恵を出していければと思います。

## 6 50戸連たんによる開発行為について

春日北校区は人口が増えている校区です。50戸連たん制度のおかげで、市街化調整区域の春日北校区でも開発ができ、家を建てることができます。

これからの都市計画などを考える中で、今後の50戸連たん制度をどのように考えているかお話しただけないでしょうか。

(市長)

50戸連たん制度は、平成20年から運用していますが、春日北校区は、この制度の利用率が高い状況です。

春日北校区は人口も増えてきていて、比較的賑わっていると思いますが、今後の本市の人口は社会増を目指すものの、自然減となることが見込まれており、空き家問題について考えていく必要があります。

佐賀市の空き家は、市全体で3,200軒、大和地区で171軒、春日北校区で44軒あります。空き家の対策については、今年度から、「空き家の活用」ということで補助事業をスタートしています。

今までは、危険な空き家の解体費を助成していましたが、それに加え、空き家の利活用に関する取組を新たに始めました。

春日北校区は、佐賀市の中では、比較的空き家が顕在化していないエリアだと思いますし、高速道路へのアクセスが良いので、人気のエリアだと思いますが、佐賀市全体としては、現時点で50戸連たん制度を見直すことは予定しておらず、空き家対策に力を入れていきたいと思っていますところでは。

## 7 子ども縁日について

まちづくり協議会で毎年11月に「子ども縁日」を行っています。ぜひ市長に参加していただけないでしょうか。

(市長)

ご案内いただき、ありがとうございます。子ども縁日へ参加することを楽しみにしています。